

第261回 昆虫学土曜セミナー

日時：2009年 6月27日（土） 14:00～17:00

話題：クワガタムシの多様性の秘密を探る

講演者：荒谷 邦雄（九大院・比文研・生物多様性講座）

場所：岡山大学農学部第2講義室（1号館南側1階）

講演要旨：

クワガタムシ科の甲虫は全世界から約1000種が知られており、熱帯、特に東南アジアに最も多くの種類が生息しているが、世界のそれぞれの地域に独特のクワガタムシ相が見られる。雄が立派な大アゴを備えた種が多いクワガタムシ科は世界的にも人気が高く、愛好者も多いが、その生物学的な研究は大きく立ち遅れている。特に、分類や系統に関しては異論が多く、統一した見解さえ得られていない。これは、クワガタムシ科の特性でもある性的二型や雄の大腮の変異があまりに多様すぎて、かえって分類や系統の手掛かりとなる特徴が見極めにくいことが大きな原因である。しかし逆に言えば、この形態の多様性こそがクワガタムシの大きな魅力であり、進化生物学上極めて興味深い題材として、多くの研究者の注目を集めてきた。最近ではクワガタムシ類は形態ばかりでなく、その行動や生態においても極めて多様性に富んでいることがわかってきた。こうした現状にあって、本講演ではクワガタムシの多様性の秘密に迫るべく、演者がこれまで行ってきた研究成果を中心にクワガタムシに関する自然史学的研究の最前線を紹介・解説したい。